

## No.3 イースター、過去最高の盛り上がり。

### 1- 「イースター」のいろ・は

イースターは「復活祭」ともいわれ、キリスト教ではイエス・キリストの復活を祝う大切な祝日とされています。「春分の日の後の、最初の満月の次の日曜日」がその日にあたるため、毎年日付が異なるのが特徴です。生命・復活のシンボルである「たまご」と繁栄・子だくさんのシンボルである「うさぎ」がモチーフ。欧米では「エッグハント」や「エッグペイント」「エッグロール」など、卵を用いて楽しく過ごします。

### 2- イースターとキューピー

春先はもともと、目立った催事が少ない時期でした。そこで、イースターのシンボルである「たまご」を国内で最も多く扱うメーカーとして、「日本にたまごをシンボルとした催事を広めたい」「もっと卵料理に親んでもらいたい」という思いから、イースターへの取り組みを始めました。2011年に一部のエリアで始めたこの取り組みは、次第に裾野を広げ、2013年にはグループ全体で内食・中食・外食に向けて提案を強化。2014年には4月からの消費税増税に伴い参画企業が増えました。駅ビルなどの大型商業施設が、施設を挙げてイースター企画を実施するようになったのもこの頃からです。全国的に手応えを感じた2015年を経て、今年イースターは過去最高の盛り上がりを迎えました。当社フードサービス部門のたまご関連商品の売り上げは、前年を上回る105%(3-4月)と伸張を続けています。



### 3- 過半数の企業が「来年も実施したい」

イースター企画実施ユーザー32社にアンケートを行ったところ、多くの企業が売上アップを実感、来年の実施意欲も高いことが分かりました。

売上アップ率



売上アップ率対象：導入企業32社のうち、売上がアップしたと回答した14社

来年の実施意欲



実施意欲対象：イースター企画実施企業全国32社

キューピー調べ：2016年4-5月実施

イースターにオススメメニュー・TOP3

- 1位：オムレツ、オムライス
- 2位：エッグベネディクト(写真)
- 3位：プリン



### 4- 気になるイースター市場

今年の特徴は、初めてイースター企画を実施する、大手コンビニエンスストアが目立ったことです。また、大手ファストフードチェーンでの初参画も印象的でした。菓子メーカー各社のイースター関連商品もますます盛況なほか、ビールメーカーがイースターイベントを開催するなど、子どもから大人までイースターを楽しめる環境が整ってきました。100円均一ショップでも、イースターグッズ関連コーナーがお目見えし、手軽にイースター気分が味わえそうです。この傾向は今後ますます高まるものと見込まれます。

### 5- 来年のイースターは、4/16

キューピーの調査によると、「イースターに食べたい料理」上位10メニューのうち、9メニューが卵を使った料理でした。クリスマスにはチキン、ハロウィンならかぼちゃ料理など、広く浸透した催事は「食」と結びつく傾向があります。「イースターに卵料理」という意識が高まりを見せる中、引き続き、メニュー提案を強化していきます。卵料理は年齢を問わず好きな人が多く、またエッグハントなど、子どもが楽しめる要素も多いことから、イースターには幅広い世代が楽しめる催事としての条件が揃っています。来年全国のエリアに合った企画を提案していきます。